

令和3年度 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う 区市町村が実施するがん検診の 受診状況等に関する調査結果



令和4年8月
福祉保健局保健政策部健康推進課

I 区市町村が実施するがん検診の受診状況調査

I-1 調査概要

○調査目的

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、健康増進法に基づいて区市町村が実施する **がん検診の受診者数等の変化を把握する**

○調査項目

区市町村が健康増進法に基づいて実施するがん検診の受診者数

区分①：胃がん（胃部X線・胃内視鏡）・肺がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん検診

区分②：集団検診・個別検診

○調査対象期間

令和元年度：平成31（2019）年4月から令和 2（2020）年3月まで

令和 2 年度：令和 2（2020）年4月から令和 3（2021）年3月まで

令和 3 年度：令和 3（2021）年4月から令和 4（2022）年3月まで

○調査対象

都内区市町村（62自治体）

○調査実施

1回目（令和元・2年度上半期分）：令和3（2021）年1月6日から1月22日まで

2回目（令和元・2年度下半期分）：令和3（2021）年6月1日から6月15日まで

3回目（令和 3 年度上半期分）：令和4（2022）年1月4日から1月17日まで

4回目（令和 3 年度下半期分）：令和4（2022）年6月1日から6月15日まで

○回収率

100%（62自治体）

○留意事項

①厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」に定める検査方法、対象年齢に限定した受診者数を集計する。

②厚生労働省「地域保健・健康増進事業報告」、東京都「精度管理評価事業」の調査では除外する受診者数※を含めて集計する。

※隔年実施の検診（胃がん、乳がん、子宮頸がん）における2年連続受診者数など

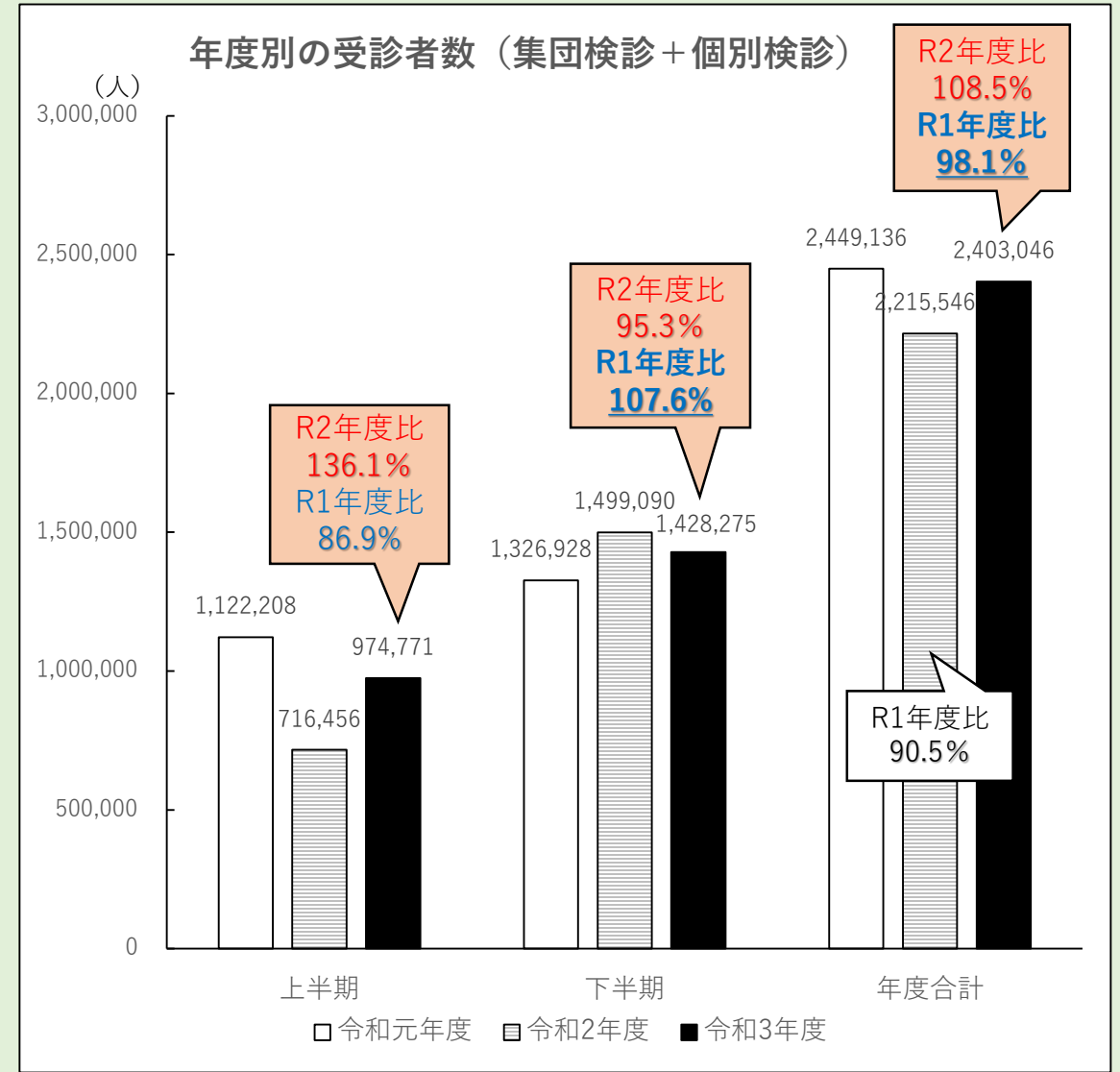
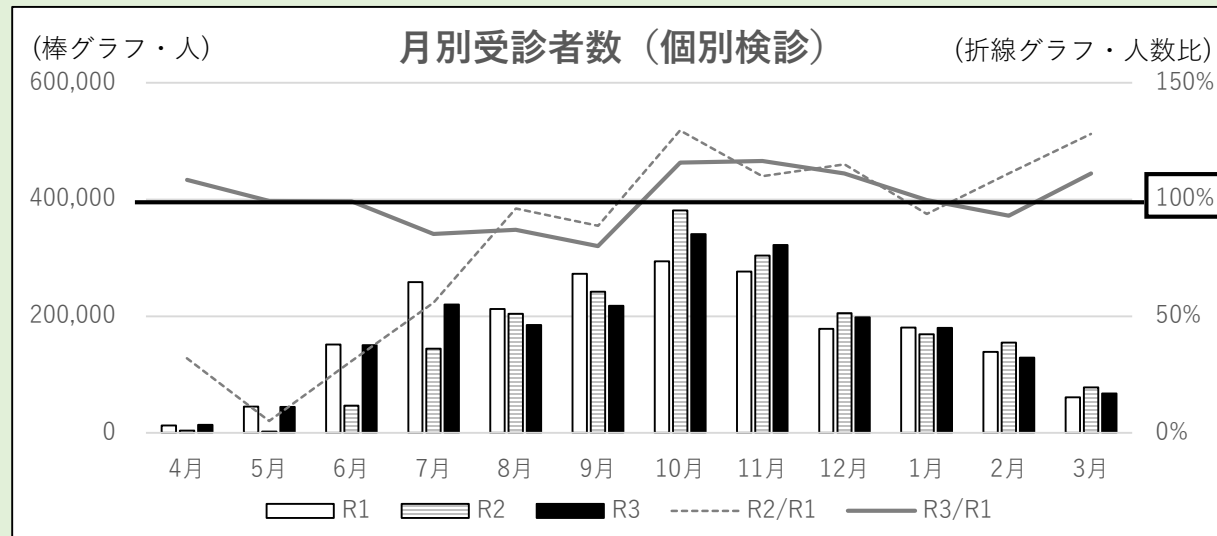
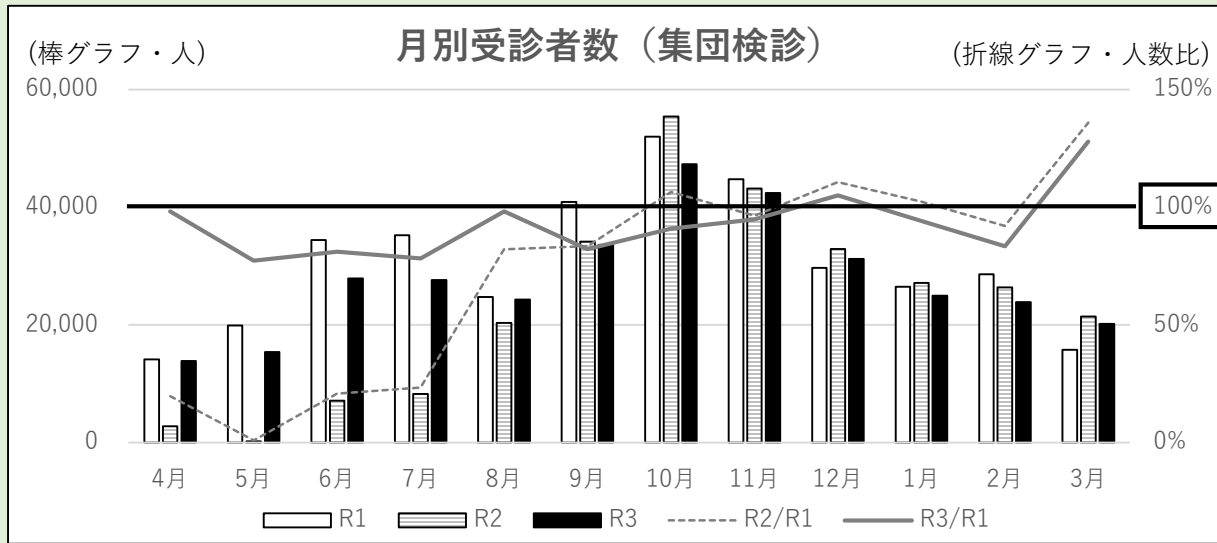
③上記に加え、本調査時点で実施機関等から報告があった受診者数を集計するため、**②の調査結果（確定値）とは一致しない。**

（参考）厚生労働省「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」

種類	検診方法		対象年齢	検診間隔
胃がん検診	問診	胃部X線検査又は胃内視鏡検査	50歳以上※	2年に1回※
肺がん検診	質問/問診	胸部X線検査及び喀痰細胞診 (50歳以上の喫煙指数600以上)	40歳以上	年1回
大腸がん検診	問診	便潜血検査（二日法）	40歳以上	年1回
乳がん検診	質問/問診	乳房X線検査（マンモグラフィ）	40歳以上・女性	2年に1回
子宮頸がん検診	問診	視診、子宮頸部の細胞診、内診	20歳以上・女性	2年に1回

※当面の間、胃部X線検査は40歳以上、年1回実施可。

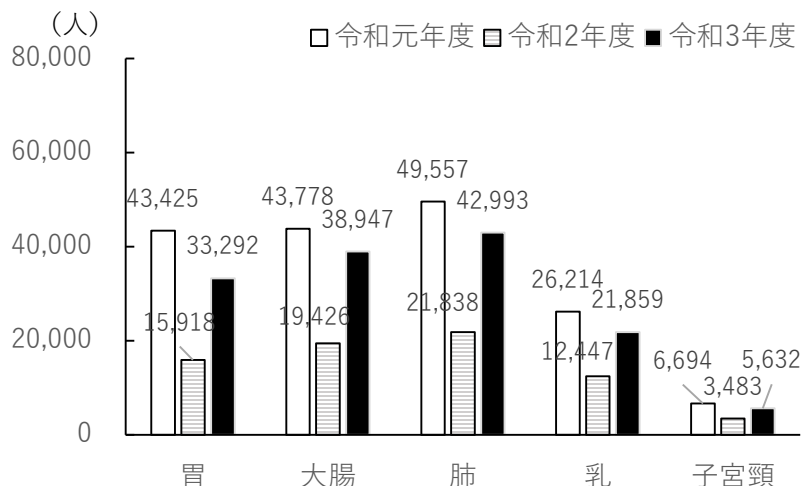
I-2-1 月毎の区市町村のがん検診受診者数及び年度別の受診者数（検診方法別、令和元年度～3年度）



- ▶ 個別検診の下半期受診者数は令和元年度同期の受診者数を上回り（109.6%）、年間では令和元年度比99.4%まで回復した。
- ▶ 集団検診の受診者数も上半期と比較して下半期は回復傾向（令和元年同期比96.2%）であるが、年間では令和元年度比90.6%であった。
- ▶ 年間の合計受診者数は令和元年度比98.1%となり、概ねコロナ禍前の水準まで回復した。

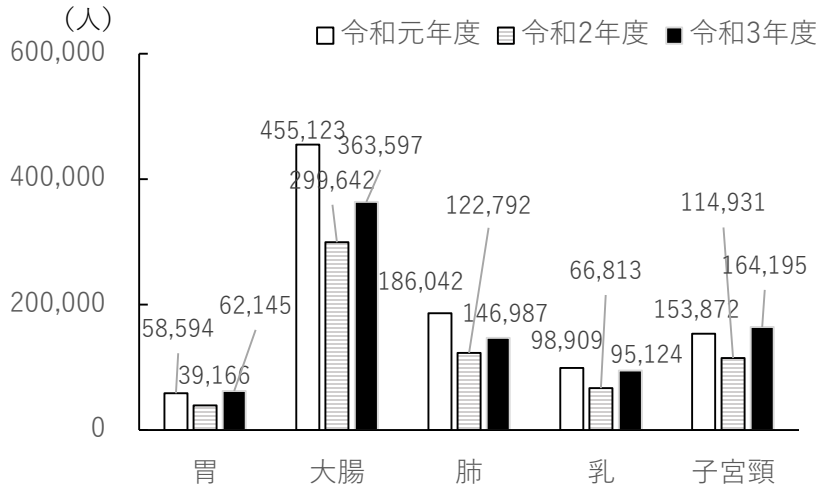
I-2-2 がん種毎の上半期及び下半期の区市町村のがん検診受診者数（検診方法別、令和元年度～3年度）

集団検診（上半期）



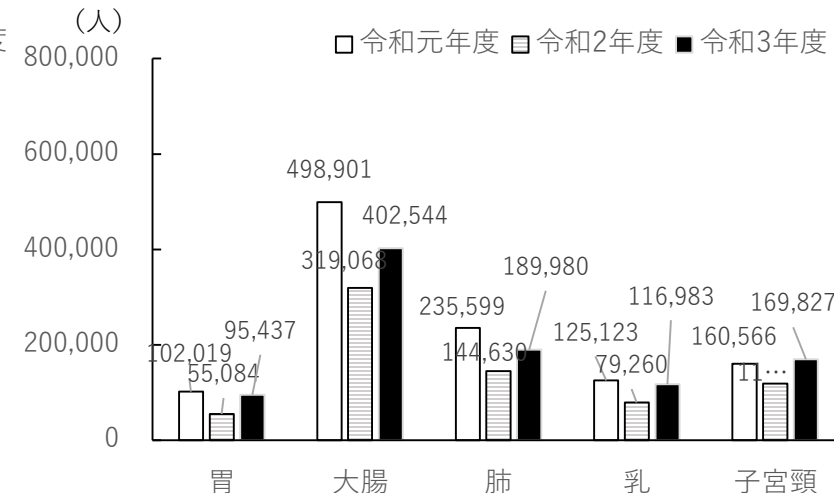
R3/R2年度比 209.1% 200.5% 196.2% 175.6% 161.7%
 R3/R1年度比 76.7% 89.0% 86.8% 83.4% 84.1%

個別検診（上半期）



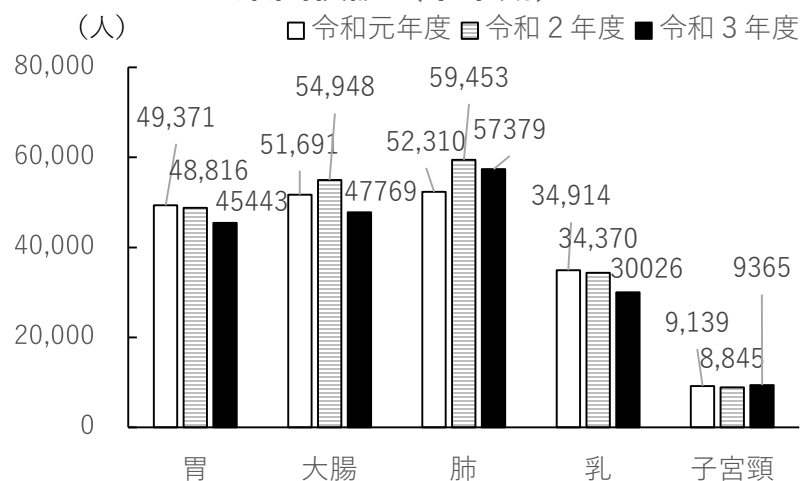
158.7% 121.3% 119.7% 142.4% 142.9%
 106.1% 79.9% 79.0% 96.2% 106.7%

集団+個別（上半期）



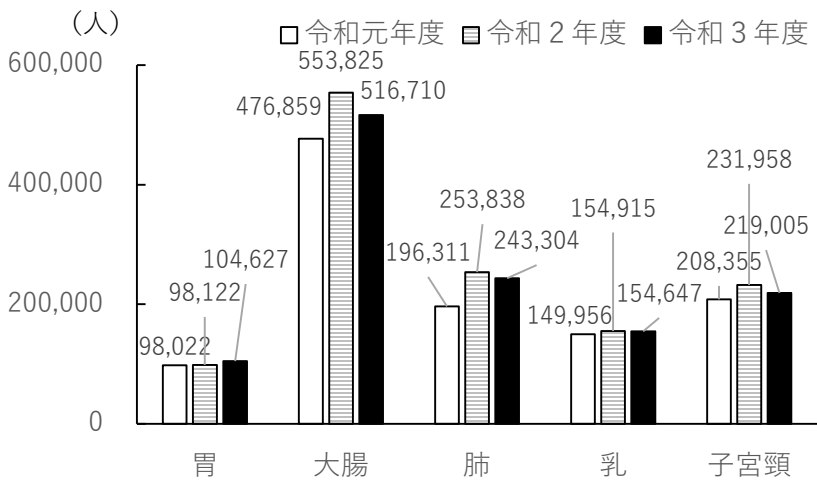
173.3% 126.2% 131.4% 147.6% 143.4%
 93.5% 80.7% 80.6% 93.5% 105.8%

集団検診（下半期）



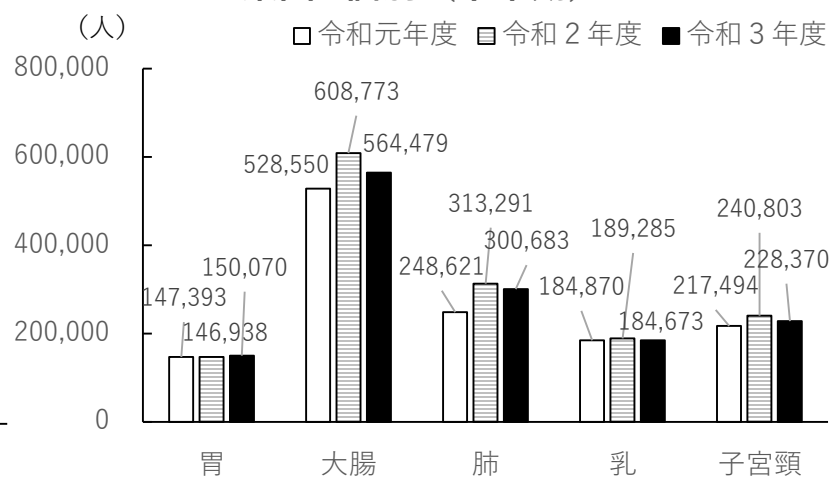
R3/R2年度比 93.1% 86.9% 96.5% 87.4% 105.9%
 R3/R1年度比 92.0% 92.4% 109.7% 86.0% 102.5%

個別検診（下半期）



106.6% 93.3% 95.9% 99.8% 94.4%
 106.7% 108.4% 123.9% 103.1% 105.1%

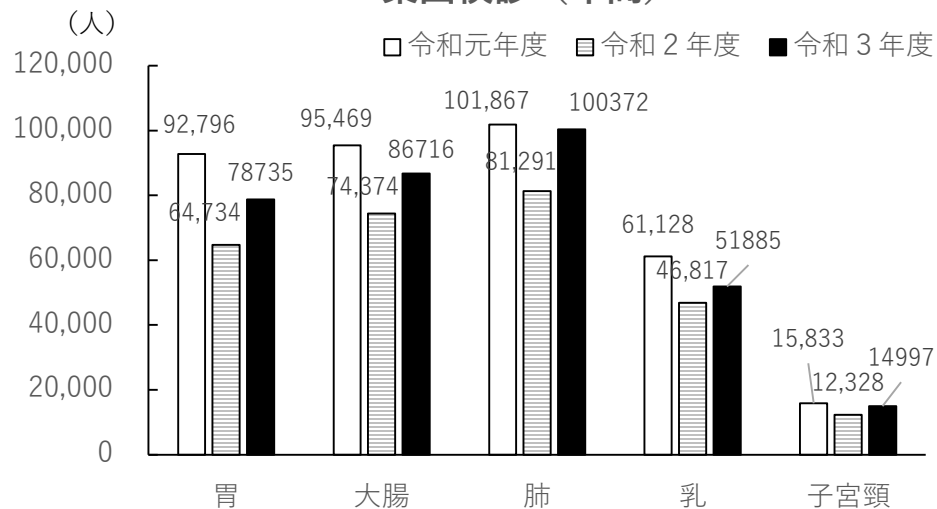
集団+個別（下半期）



102.1% 92.7% 96.0% 97.6% 94.8%
 101.8% 106.8% 120.9% 99.9% 105.0%

I-2-3 がん種毎の区市町村のがん検診年間受診者数（検診方法別、令和元年度～3年度）

集団検診（年間）



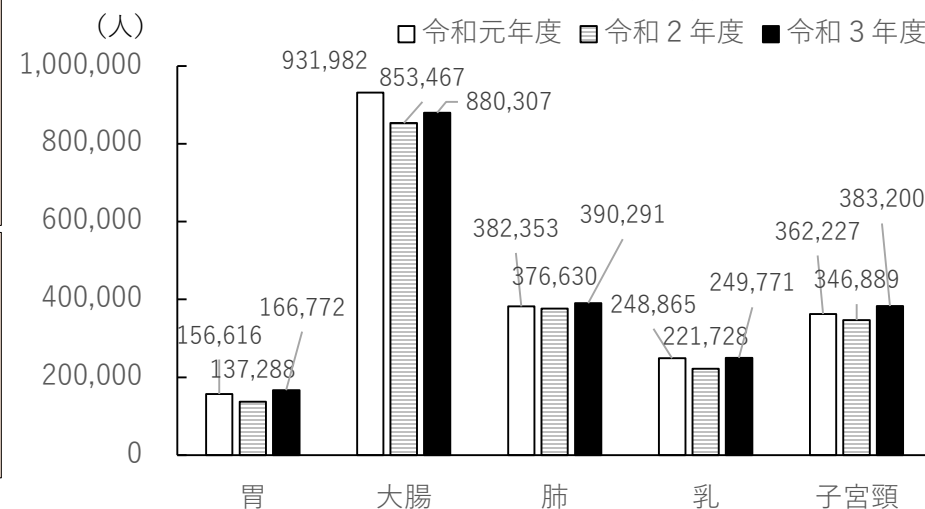
【R3/R2年度比】

胃	: 121.6%
大腸	: 116.6%
肺	: 123.5%
乳	: 110.8%
子宮頸	: 121.6%

【R3/R1年度比】

胃	: 84.8%
大腸	: 90.8%
肺	: 98.5%
乳	: 84.9%
子宮頸	: 94.7%

個別検診（年間）



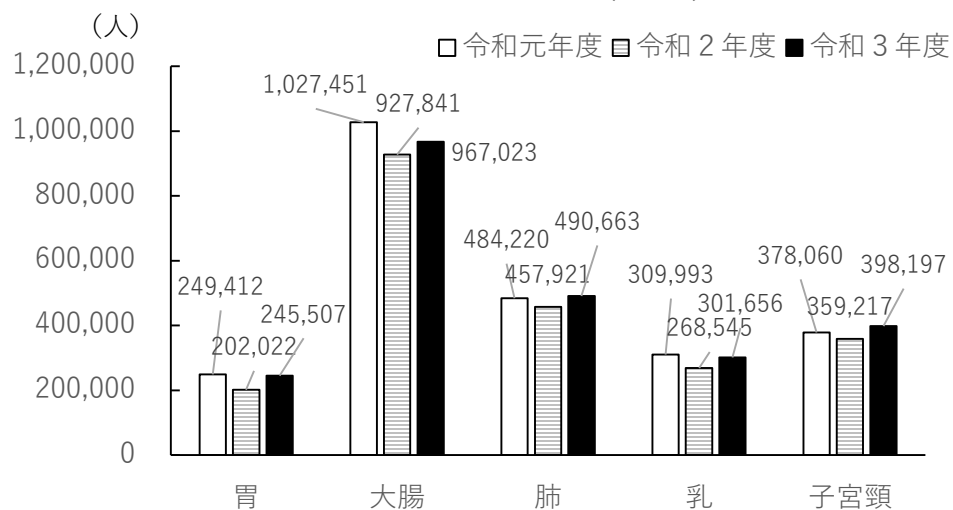
【R3/R2年度比】

胃	: 121.5%
大腸	: 103.1%
肺	: 103.6%
乳	: 112.6%
子宮頸	: 110.5%

【R3/R1年度比】

胃	: 106.5%
大腸	: 94.5%
肺	: 102.1%
乳	: 100.4%
子宮頸	: 105.8%

集団+個別（年間）



【R3/R2年度比】

胃	: 121.5%
大腸	: 104.2%
肺	: 107.2%
乳	: 112.3%
子宮頸	: 110.9%

【R3/R1年度比】

胃	: 98.4%
大腸	: 94.1%
肺	: 101.3%
乳	: 97.3%
子宮頸	: 105.3%

- **全てのがん種で令和2年度の受診者数を上回り、回復傾向にある。** 令和2年度と比較して最も受診者数の割合が増加したのは胃がん検診で121.5%であった。
- 令和元年度（コロナ禍前の水準）と比較すると、**集団検診では全てのがん種で令和元年度の受診者数を下回っている。**一方、**個別検診では大腸がん検診以外のがん種で令和元年度の受診者数を上回っており、集団検診よりも個別検診の方が回復傾向が強い。**

【参考】区市町村におけるがん検診受診者数の増減に影響したと考えられる要因

がん検診受診者数の減少の要因

<コロナ関連>

- ・感染不安による受診控え
- ・感染症対策のための人数制限
- ・検診実施委託医療機関においてコロナ対応が優先となり、検診の受け入れが例年より困難になったこと
- ・新型コロナワクチン接種に関連する検診実施会場の縮小
- ・新型コロナワクチン接種終了後に検診受診を希望する住民の増加
- ・コロナウイルスが落ち着いた期間に受診者が集中し、予約が取りにくい状況があったこと
- ・感染症流行のタイミングにより、受診勧奨が十分な効果を発揮しなかったこと
- ・大腸がん検診は健康診査との同時受診が多く、健診受診控えの影響を受ける

<胃内視鏡検査の導入、受診間隔の見直し>

- ・胃内視鏡検診導入に伴う胃エックス線検診受診者数の減
(エックス線検査は毎年受診可→胃内視鏡検査は2年度に1回受診可)
- ・受診間隔の適正化による対象人数の減少 (毎年→2年に1回)

<オリパラ関連>

- ・オリンピック・パラリンピックの影響による交通規制により、検診車手配のためのスケジュール変更

<その他>

- ・実施医療機関の撤退
- ・申込方法の変更 (事前申込不要→申込制)

がん検診受診者数の増加の要因

<申込方法の整備>

- ・検診申込方法の拡充
- ・申込みに電子申請を活用 (コロナ禍で高齢の方のWEB使用が増加)
- ・検診を申し込み不要で受けられるように受診票を送付

<受診環境の整備>

- ・検診実施機会の拡大 (検診実施期間の延長、検診実施機関数の増加等)
- ・区民健診同時実施の胸部エックス線検査を肺がん検診に一本化
- ・他の健診や複数の検診の同時実施
- ・土日祝の実施
- ・女医対応可の病院がわかる医療機関名簿の作成 (子宮頸がん検診)

<広報の工夫・拡大>

- ・がん検診についての広報を全戸配布
- ・がん検診に関するキャンペーンの実施
- ・コロナ禍でもがん検診が重要であるコラムの掲載

<胃内視鏡検査の導入、受診間隔の見直し>

- ・胃内視鏡検査の導入や受診対象年齢の拡大
- ・2年に1回の検診について受診機会の適正化
(偶数年齢のみ受診可→前年度未受診者が受診可)

<受診勧奨の工夫>

- ・受診勧奨・再勧奨の拡大、強化、時期の前倒し
- ・各医療機関による受診勧奨
- ・元気ポイント (インセンティブ) による受診勧奨の実施
- ・検診会場で感染対策を徹底していることを広報案内文で周知

<その他>

- ・がん検診の重要性の理解促進
- ・転入超過による受診者数